

# 地域医療連携ニュース



## ごあいさつ

副院長 中元 秀友

みなさんこんにちは。埼玉医科大学病院副院長の中元秀友です。地域連携ニュースをお読みの皆様には、日頃埼玉医科大学病院との連携に、さらに埼玉県地域医療の振興に御協力頂き本当に有り難うございます。また患者さんのご紹介、逆に受け入れ等の機会に御協力を頂き有り難うございます。心より感謝しております。本来であれば先生がたのもとに行き直接ご挨拶を行うべきですが、失礼ながらこの場をかりて御礼の挨拶とさせていただきます。

さて、先日の第2号でも私が責任者をしている総合診療内科のご紹介をさせていただきました。総合診療内科について聞き慣れない先生もいらっしゃると思います。この場をかりて病診連携における総合診療内科の立ち位置とその役割について説明させていただきます。

総合診療内科は埼玉医科大学病院の診療の窓口として機能している診療科です。地域連携の中心となる診療科です。内科系疾患であれば、臓器にとらわれず、すべての患者さんの診療に対応します。埼玉医科大学病院に紹介しようと考えたとき、特に紹介先が不明な時には、まず総合診療内科へご紹介ください。熱がでた、息苦しい、胸が痛い、お腹が痛い、あるいは体調が悪い等患者さんのどのような症状に対しても対応いたします。また、「他の病院で相談したけど診断がつかない。」「お薬をもらったけど、症状が良くならない」、そのような場合にも安心してご紹介下さい。それぞれの分野の専門家もそろっており、どのような症状にも対応いたします。また、大学病院内外の多くの診療科とも連携しており、必要とあれば適切な診療科へ紹介させていただきます。また他院からの転院にも随時対応しています。転院が必要と考えたなら、いつでもご相談ください。

埼玉医科大学総合診療内科は埼玉医科大学病院の地域連携の窓口です。先生からのご紹介、ご相談をお待ちしています。皆さんと一緒に地域医療に貢献できることを楽しみにしています。今後とも宜しくお願いいたします。

## Contents

最近の知見 .....	2
消化器内科・肝臓内科から	
診療科のご紹介 .....	3
小児外科	
呼吸器内科	
新任医師のご紹介 .....	4
整形外科・脊椎外科	
神経精神科・心療内科	
看護部から .....	5
地域医療連携室から .....	5
カルナ(インターネット予約システム)の利用 .....	6
提携医療機関から	
清水病院 .....	6
初野医院 .....	7

## 最近の知見:肝疾患,消化器疾患の個別化医療によるトータルケア

### <我が国における消化器疾患の動向>

我が国の消化器疾患は、その実態が大きく変化しています。C型肝炎ウイルス（HCV）は直接作用型抗ウイルス薬（DAA）を8～12週間内服することで、ほぼ全例で排除できるようになりました。このためHCVによる肝硬変、肝癌は減少しましたが、肥満、糖尿病、飲酒などによる脂肪性肝疾患を基盤とする肝癌が増加しています。また、B型肝炎ウイルス（HBV）は核酸アナログの内服でコントロールできますが、排除できないため肝癌が減少していません。また、高齢化を反映して、上部、下部消化管の出血例が急増し、自己免疫性疾患、炎症性腸疾患などの難病も増加しています。一方、治療法に関しては、肝硬変の各種症候に対する新薬が次々と登場し、肝癌では分子標的薬と免疫チェックポイント阻害薬の併用が認可される見込みであり、予後の大幅な向上が期待されています。

### <肝・胆道・膵疾患への取り組み>

埼玉医科大学病院は埼玉県の肝疾患診療連携拠点病院で、厚生労働省「難治性肝・胆道疾患に関する調査研究」班では劇症肝炎分科会の事務局を担当しています。このため全県下から、急性肝不全、自己免疫性肝疾患などの難病症例が受診し、研究班の成果を基に最新の診療を提供しています。また、重症アルコール性肝炎では、副腎皮質ステロイドと顆粒球除去のsequential療法など、独自の治療法を開発しています。

ウイルス性肝疾患では、HCVの薬剤耐性アミノ酸変異を判定する方法を確立し、その成果は全国の症例で利用していただいております。また、DAA治療の不成功例は、全県下から集まりますが、ウイルス遺伝子を解析して難治要因を解明し、その対策法を各施設にフィードバックしています。その手法としては第3世代シークエンサーを導入し（図1）、他施設では解析不能の症例にも対応可能です。同シークエンサーはヒト遺伝子の解析にも有用で、今後はウイルス性以外の疾患にも対象を広げ、遺伝子情報に基づいた個別化医療を目指しています。

### <消化管疾患への取り組み>

特に難治性である門脈圧亢進症による消化管出血に対して、内視鏡的治療とバルーン閉塞下逆行性経静脈的閉塞術（B-RTO）、部分的脾塞栓術

図-1  
a)



b)



消化器・肝臓内科研究室。a) 中央: 内田義人助教(日本肝臓学会のBMS冠Award受賞時に共同研究者と撮影), b) 第3世代のシークエンサー(ナノポアシークエンサー: MinION, Oxford Nanopore Technologies)。

図-2



日本門脈圧亢進症学会: 第1回技術認定表認定式。中央: 中澤学助教(内視鏡治療技術全国1位表彰)、左: 今井幸紀准教授

(PSE) など血管造影を利用したIVR治療を併用する先進的な治療体系を確立しています。日本門脈圧亢進症学会の技術認定制度では、初回内視鏡治療の認定で中澤学助教が全国1位として表彰され（図2）、また、今井幸紀准教授は数少ないIVR治療の認定者になっています。

### <診療部長のコメント>

消化器内科・肝臓内科は、遺伝子解析に基づいた個別化医療と消化管出血、肝癌、難治性肝胆膵疾患の集学的治療に特に力を入れ、最先端の医療を提供しています。消化管出血のリスクのある患者さんは、早めにご紹介ください。また、肥満、糖尿病、飲酒歴のある方は、いずれ肝癌を併発するリスクがあり、肝機能検査値が正常範囲内の場合でも、当科でのリスク評価を推奨いたします。



消化器内科・肝臓内科 診療部長 持田 智  
外来 ☎049-276-2034

## ● 小児外科

埼玉医科大学病院小児外科は、1994年から小児外科学講座として診療をはじめました。当科では、新生児から中学生までのお子さんを対象として、脳・心臓・骨などの病気を除いた疾患の治療を行っています。2008年には、大学病院では初めての『成育医療センター』が設立され、産婦人科・新生児科を含む小児科の先生方と連携した診療を開始し、埼玉県北西部地域のお子さんたちを対象として、年間約350~400例の小児外科手術を行って参りました。

2012年に現在の主任教授の古村 眞が着任し、2018年には副主任の教授として尾花和子が加わり、助教3名と、病棟、外来、手術室などのスタッフとともに、チーム医療を行っています。

手術治療では、傷が目立ちにくく、負担の少ない内視鏡下手術を積極的に行っており、鼠径ヘルニアや虫垂炎の手術は、臍の中に傷が隠れるのでパッと見ても手術創がわかりません。また、手術以外にも、自己導尿、排便管理、栄養療法などの在宅での管理を必要とするお子さんが、家庭や学校での生活を円滑に行えるように、地域や行政とも連携しながら適切なサポートが受けられることを目指しております。さらには、神経難病疾患の診療における外科的な分野を担当し、お子さんの快適さとお子さんをサポートするご家族の負担が軽減できるような診療を心がけております。手術治療に限らず、お気軽にご相談ください。

### 診療部長のご挨拶

小児外科の古村 眞でございます。埼玉医科大学病院小児外科の診療チームは、産婦人科、小児科、新生児科の先生方と協力しながら診療を行っています。診療行為には、リスクを伴います。新たな診療チームとなり、お子さんの安全、ご家族の安心が得られて負担が軽減されるように診療を行っています。お気軽に紹介して頂ければと存じます。

左：尾花和子教授 右：古村 眞教授

小児外科 古村 眞  
外来 ☎049-276-1905



## 診療科のご紹介

## ● 呼吸器内科

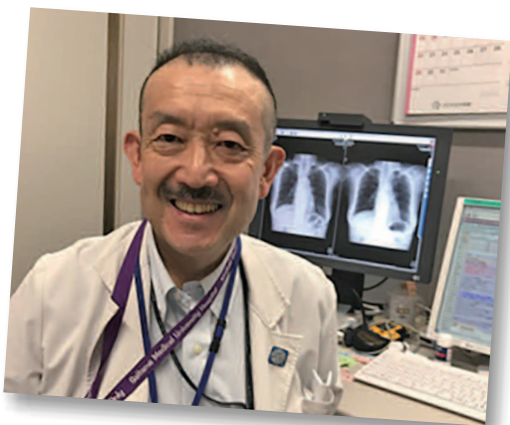
地域の先生方におかれましては大変にお世話になっております。埼玉医科大学病院呼吸器内科は、県西部を中心とした広大な領域の呼吸器疾患患者さんをお預かりいたしております。喘息、COPD、睡眠時無呼吸症候群、肺炎や真菌症に代表される感染症、そして各種の間質性肺炎などが主たる診療範囲です。肺癌診療におきましては手術機能が国際医療センターにあるために、主に精査と、そして手術不能例における各種の薬物療法・免疫療法を担当いたしております。国際医療センターよりも検査等は早い場合がありますし、週2回の合同診療カンファ

ランス等を通して2病院は連携して、手術の可能性をも含めた包括的肺癌診療を行っておりますので、肺腫瘍が良性疾患かお迷いのケースなどをふくめ、ご遠慮なく患者さんをご紹介くださればと存じます。外来部門のアレルギーセンターでは、難治性喘息での各種抗体治療による重症患者の救済と、若年者を中心としたアトピー型喘息での原因療法であるアレルギー免疫療法の普及に力をいれております。重症例や“体質改善”を希望される患者さんなどはどうぞご紹介いただければと存じます。

### 診療部長のご挨拶

私は埼玉医大卒業生（6回生）です。自分自身、小児期から喘息に苦しめられてきて、この分野を志しました。私は全入院患者の指導管理責任を担わせていただいておりますのと、外来では主に、アレルギーセンターのセンター長として専門的診療を行っています。今後とも何卒宜しくご指導のほど、お願い申し上げます。

呼吸器内科 永田 眞  
外来 ☎049-276-1197



● **整形外科・脊椎外科 鳥尾 哲矢（とりお てつや）**



2018年6月1日付で埼玉医科大学整形外科・脊椎外科教授を拜命致しました。私は、1993年本学を卒業し、本学整形外科教室へ入局しました。臨床研修は国立身体障害者リハビリテーション病院、虎の門病院などの関連施設で研修を受け、英国留学の後、本学で脊椎外科診療を行って来ました。

脊椎外科診療は、頸や背中（腰）の痛みから手足のしびれ、体幹バランスまで脊柱・体幹・四肢に係わる様々な症状を診ていくものです。診療範囲は広く、脊椎変性疾患、靭帯骨化症、腫瘍、炎症、外傷、脊柱変形など多岐にわたります。年齢も小児から高齢者まで対応しており、小児に関しては10年前から小児脊柱側弯症外来を開設し装具療法と手術療法を行って来ました。運動器検診などでご指摘の際にはお気軽にご相談頂きたく存じます。

また、近年内科疾患に伴う成人脊柱疾患の患者さんが増えています。透析やリウマチ性疾患等に伴う脊柱変形疾患を仕方が無いと諦めずに高いQOLを再獲得できるよう診療に努めており積極的に診療連携させて頂きたいと考えております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

**新任医師のご紹介**

● **神経精神科・心療内科 松尾 幸治（まつお こうじ）**

2018年6月1日付で、埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科の教授として着任いたしました。私は小・中・高校と埼玉県上尾市で過ごし、1994年に千葉大学を卒業後、東京大学精神神経科に入局し、北海道立緑ヶ丘病院、JR東京総合病院で診療経験を積み、テキサス大学留学後、2007年に山口大学に移り、この度ようやく故郷に戻って参りました。

診療や研究の対象疾患は、双極性障害（躁うつ病）、うつ病といった気分障害で、専門外来も行っていました。留学中も気分障害患者さんの研究用診断面接を行い、日米の患者さんの訴えの異同を経験したことは貴重な財産になっています。山口大学病院では地方の地域連携医療の重要性を肌で感じる経験もして参りました。

うつ病は精神科以外でも遭遇するポピュラーな疾患で、最近ではわが国の高齢化に伴い高齢うつ病が注目されています。気分障害は身体疾患に合併することが少なくなく、身体疾患の予後を左右することもあり、気分障害の適切な診断及び治療は重要です。今後、地域で求められている役割を果たし、気軽にかかれる科を目指し、故郷の地域精神科医療の底上げに尽力していく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



● **病院長からのエール**

整形外科・脊椎外科の鳥尾哲矢准教授が、2018年6月1日付で教授に昇格しました。鳥尾先生は本学の卒業生で、脊椎外科および外傷を専門としております。国際医療センター開設以来、救命救急センターの外傷チームを率いてきましたが、昨年2月から大学病院を本務として脊椎外科グループのチーフとして、数多くの脊椎疾患患者さんの外来診療、手術治療に取り組んでおります。加えて、本年8月からは院長補佐も兼務し、特に患者支援部副部長として地域医療連携室も担当しますので、お気軽にお声がけ下さい。

同じく6月1日付で、神経精神科・心療内科に松尾幸治教授が赴任されました。松尾先生は山口大学精神科で11年間勤務してこられたのですが、埼玉県上尾市で生まれ育ったとのことですので、故郷に錦を飾ったこととなります。ご専門は双極性障害やうつ病などの気分障害とのことですが、前任地では他科との連携も積極的に行ってこられたそうです。明るく快活で、何でも気軽に相談できるお人柄なので、精神科リエゾンサービスの充実にも力を発揮して頂けるものと期待しております。



## ●看護部から

埼玉医科大学病院形成外科では、リンパ浮腫の診療を行っています。

今回は、「医療リンパドレナージ上級セラピスト」「リンパ浮腫療法士」の資格を取得した看護師が、リンパ浮腫の保存的治療を行う「リンパ浮腫ケア外来」について紹介します。

患者さんは、医師の診察を受けてから、リンパ浮腫ケア外来の予約を取ります。

リンパ浮腫の保存的治療は、「複合的治療」と言い、「スキンケア」「用手的リンパドレナージ」「圧迫療法」「圧迫下での運動療法」「日常生活指導」等を、患者さんの状態により組み合わせて行う治療です。中でも圧迫療法は重要で、下肢リンパ浮腫では弾性ストッキング、上肢リンパ浮腫では弾性スリーブ・グローブを患者さんの浮腫の状態に合わせて選択します。弾性着衣は正しく装着することが重要な為、着脱の方法や注意事項等の指導を行います。看護師による用手的リンパドレナージは、40分～90分程の時間をかけて、直接肌に触れてリン

パドレナージを行います。患者さんからは、脚が軽くなる・皮膚がやわらかくなる・弾性ストッキングが履きやすくなる等のご意見を頂いています。

現在、リンパ浮腫ケア外来は年間述べ250名の患者さんが来院しています。完全予約制で行っており、予約が入りにくい状況があります。近隣のリンパ浮腫の複合的治療を行う治療院と連携して患者さんの治療に当たっています。

リンパ浮腫でお困りの患者さんがいましたら、形成外科外来（049-276-1288）にご相談下さい。



## 地域医療連携室から

### 医療機関の皆様へ

地域医療連携室では、医療推進、機能分化に伴う集約的な窓口として、医療機関からのカルナ（インターネット予約システム）やFAX紹介による診療予約受付、外来担当医表の発送、などを行っています。

紹介元の先生方からの患者紹介に関する問い合わせ（受診相談、転院相談等）については、**直接該当科外来**へお電話をお願い致します。

連携医療機関からの各種問合せに関して迅速に対応させていただいております。また、紹介医療機関への報告書（お返事）が滞ることのないように、病院連携システムにて管理しております。未報告に関しては外来と連携をとり対応させていただきます。

### 患者さんをご紹介頂くにあたって

当院では地域の医療機関と、患者さんに一貫性のある適切な医療を提供するために相互が協力・緊密な医療提携を図ることを目的として提携医療機関・登録医制度を設けています。登録頂きカルナ（インターネット予約システム）をご利用頂きますとインターネットで診療及び検査の予約が行えます。

### シンフォニーについて

埼玉医科大学病院は地域の先生方との顔の見えるきめ細かい情報交換を行い、さらに地域との連携を深めてまいりたいと考え、シンフォニー（紹介患者報告会）を2012年から毎年2回開催しております。

#### 【シンフォニー】

紹介して下さった地域の先生方に、患者さんのその後の経過を主に診療科の特色等も交えながらのご報告会です。

地域医療連携室 049-276-1876

# カルナ(インターネット予約システム)の利用

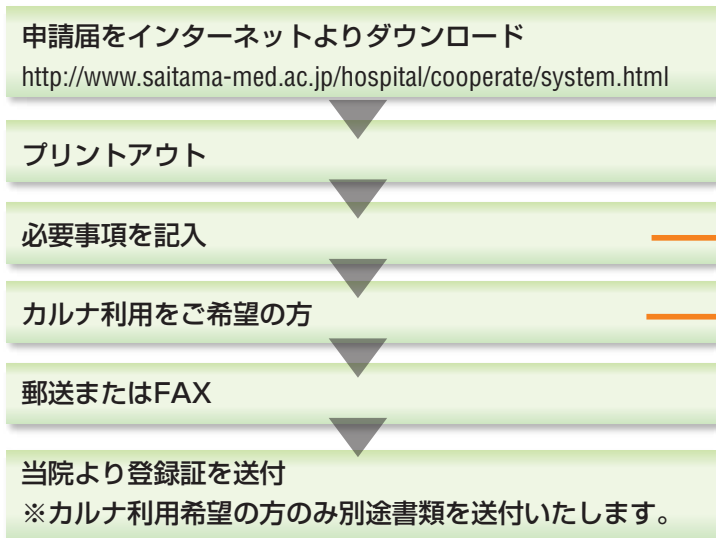
## 提携医療機関・登録医制度について

埼玉医科大病院と地域の医療機関とで、患者に一貫性のある適切な医療を提供するために相互が協力・緊密な医療連携を図ります。

## 提携医療機関・登録医、カルナシステム利用について

### 1. 「提携医療機関・登録医申請届」を提出してください。

▶ カルナシステムを利用されたい方は、申請届を提出する際に申し出てください。



提携医療機関・登録医 申請届  
 平成 年 月 日

埼玉医科大学病院  
 病院長 織田 弘美 殿

私は、埼玉医科大学病院 病診連携システム(提携医療機関・登録医制度)の主旨に賛同し、登録申請いたします。

登録医師名 1医療機関1名(理事長・院長・所長等を明記)

医療機関名

診療科目名

郵便番号

医療機関所在地

電話番号

FAX番号

カルナ希望 あり なし(どちらかに○をつけてください)

## 提携医療機関から

### 医療法人社団 マウナケア会 清水病院(坂戸市)

当院は1957年の開業より60年以上にわたり産科・婦人科を中心に診療を行ってまいりました。

その間、医療機器の進歩等により産科領域では妊娠初期より胎児奇形やその他の異常、婦人科領域では比較的小さな子宮および卵巣の腫瘍が発見される様になりました。

その際、超音波検査で発見された胎児異常等に対する精査依頼や子宮・卵巣腫瘍の質的診断を高めるためのCTおよびMRI検査の予約のためにカルナシステムを利用しております。

カルナシステムによる診療や検査の予約は当院のパソコンやタブレット端末よりできるため、その場で患者様と相談しながらご都合の良い日時を選ぶことができるため、非常に有用であると思います。

理事長・院長：清水省志



### 医療機関情報

診療科目：産科・婦人科

診療時間：午前9:00～午後0:00

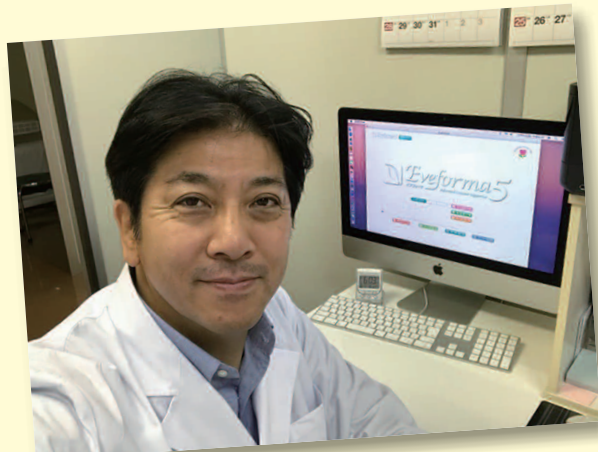
午後2:00～午後5:00

(火曜日は午後3:00～午後6:00)

水曜日午前、土曜日午後は完全予約制の妊婦健診

休診日：水曜日午後、日曜日、祝日

ホームページ：<http://www.shimizu-hospital.com>



### 2-1. 患者紹介(外来診療予約)について

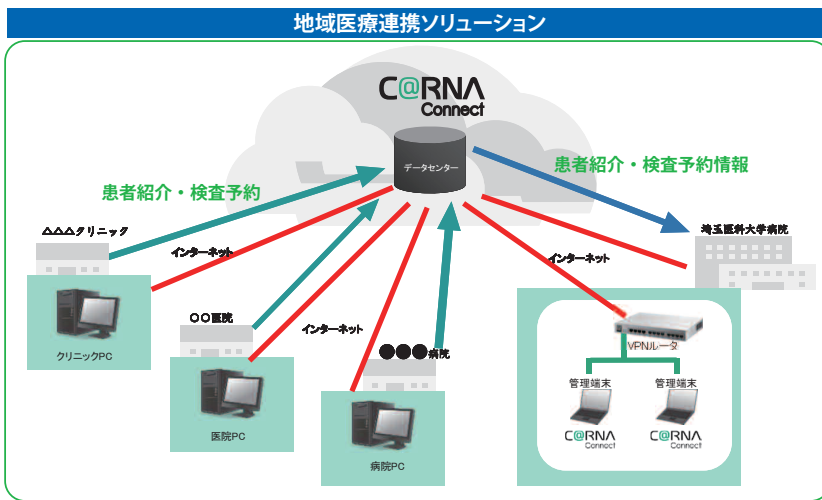
- ①カルナシステムでは、指定の予約枠に入力していただくことで、予約が取得できます。
- ②患者さんは医務課での初診受付は必要なく、直接診療科外来で受け付け、お待ちいただけます。

### 2-2. 特定の検査の依頼について

- ▶カルナでは、CT検査、MRI検査、アイソトープ検査、骨シンチ、心エコー検査、腹部エコー検査などの検査もご利用できます。
- 検査終了後すみやかに、専門医の読影報告書を送付いたします。

### 2-3. 受診報告について

- ▶紹介患者さんが受診後には、報告書を送付させていただきます。



平成30年新規カルナ登録医療機関(H30.6~8)			
水村医院	日高市	院長	水村 賢司
野澤 クリニック	川越市	院長	野澤 誠
宮坂医院	鴻巣市	理事長・ 院長	宮坂 良介
しぶや 歯科医院	川越市	院長	澁谷辰之進
山崎 整形外科	久喜市	理事長	山崎 茂
脳神経外科プレ インピア坂戸西	坂戸市	院長	横田 仁
みずほ台病院	富士見市	理事長	井坂 勝利

## 初野医院 (毛呂山町)

当院は1976年より毛呂山町で開業し、地域医療の担い手の一端として患者さんと共に歩んで参りました。その中でCTやMRIといった当院には設備のない精密検査が必要な方、他科受診や専門外来受診が必要な方、手術症例のご紹介等に際してカルナシステムを利用させていただくようになり、診察室内で患者さんと一緒にパソコンを見ながらその場で迅速に受診日・受診時間を決定できる為、従来と比較すると大学病院一患者間のタイムスケジュールの調整に時間を費やすことがなくなり、非常に満足度の高い予約システムであると思っておりますので、更に使い易くなることを期待しております。

院長：初野健人



### 医療機関情報

診療科目：内科・循環器内科

受付時間：午前9:00～午前11:30  
午後2:00～午後5:30

休診日：木曜日、日曜日、祝日

備考：毎月1・3・5週目の土曜日は午前診療のみ



## 埼玉医科大学 建学の理念

- 第1. 生命への深い愛情と理解と奉仕に生きる  
すぐれた実地臨床医家の育成
- 第2. 自らが考え、求め、努め、以て自らの成長を  
主体的に開展し得る人間の育成
- 第3. 師弟同行の学風の育成

### 埼玉医科大学病院の基本理念

当院は、すべての病める人に、満足度の高い医療を行うよう努めます。

### 病院の基本方針

1. すべての病める人々にまごころをもって臨みます。
2. 安心して質の高い医療を実践します。
3. まわりの医療機関と協力し合います。
4. 高い技能を持つ心豊かな人材を育成します。
5. より幸せとなる医療を求めた研究を推進します。

## 埼玉医科大学の期待する医療人像

高い倫理観と人間性の涵養  
国際水準の医学・医療の実践  
社会的視点に立った調和と協力

### 患者さんの権利

当院は、すべての患者さんには、以下の権利があるものと考えます。これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. ひとりひとりが大切にされる権利
2. 安心して質の高い医療を受ける権利
3. ご自分の希望を述べる権利
4. 納得できるまで説明を聞く権利
5. 医療内容をご自分で決める権利
6. プライバシーが守られる権利

### 埼玉医科大学病院 病院機能評価受診における連携医療機関様へのごお願い

平素は、埼玉医科大学病院の運営に多大なご協力を賜り心から厚く御礼申し上げます。

この度、当院は2018年12月12日（水）から14日（金）に病院機能評価を受審することになっております。

これに伴い上記期間中、当院のほぼ全ての医師は院内で審査官への対応や待機にあたる必要があります。従いまして連携施設における診療がほぼ困難な状況となります。

連携医療機関の先生方にはご迷惑をおかけし誠に申し訳ありませんが、何卒ご理解を承りたく事前にお知らせさせていただきます。

ご不便をおかけ致しますがご理解とご配慮の程宜しくお願い申し上げます。

埼玉医大病院病院長 織田弘美

### 連携医療機関からの各種問い合わせ

救急センター・中毒センター：049-276-1199  
地域医療連携室(カルナ・FAX紹介)：049-276-1876  
番号案内：049-276-1111

総合相談センター(退院調整)：049-276-2119  
セカンドオピニオン受付：049-276-1121



### 埼玉医科大学病院

#### 地域医療連携ニュース（4号）

発行：埼玉医科大学病院  
発行責任者：織田 弘美  
編集：埼玉医科大学病院広報戦略委員会  
編集責任者：篠塚 望  
電話：049-276-1876 地域医療連携室  
住所：埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38  
発行日：2018年10月1日

※掲載している写真等は、関係者の同意を得ています。